

**テーマ：貿易統計（2014年8月）**
**発表日：2014年9月18日（木）**

～輸出の足取りは鈍い～

第一生命経済研究所 経済調査部  
 担当 副主任エコノミスト 高橋 大輝  
 TEL：03-5221-4524

		貿易収支(億円)				輸出数量						輸入数量							
		原数値		季調値		輸出金額		アメリカ		EU		アジア		アメリカ		EU		アジア	
						前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
	9月	▲ 9432	▲ 11390	11.4	16.7	▲ 1.8	▲ 1.2	▲ 2.2	▲ 4.0	▲ 2.1	▲ 5.7	14.1	1.4						
	10月	▲ 11004	▲ 12155	18.6	26.3	4.4	5.3	8.0	2.0	6.4	▲ 2.0	6.0	3.3						
	11月	▲ 13011	▲ 13296	18.4	21.2	6.2	2.9	0.4	5.9	3.4	21.2	▲ 7.0	1.8						
	12月	▲ 13072	▲ 11792	15.3	24.8	2.5	▲ 4.6	5.4	2.2	4.7	1.1	16.9	1.8						
14	1月	▲ 27950	▲ 17243	9.5	25.1	▲ 0.2	6.3	5.5	▲ 2.0	8.0	15.3	9.2	10.9						
	2月	▲ 8047	▲ 11401	9.8	9.0	5.4	▲ 1.0	8.2	5.0	▲ 0.5	16.0	8.6	▲ 2.9						
	3月	▲ 14507	▲ 15969	1.8	18.2	▲ 2.5	1.5	▲ 0.3	▲ 4.9	11.6	13.3	12.8	11.3						
	4月	▲ 8149	▲ 8635	5.1	3.4	2.0	▲ 1.5	4.8	▲ 1.3	▲ 1.3	6.2	0.7	1.1						
	5月	▲ 9108	▲ 8601	▲ 2.7	▲ 3.5	▲ 3.4	▲ 1.9	6.4	▲ 4.9	▲ 4.0	1.0	▲ 0.7	▲ 2.3						
	6月	▲ 8285	▲ 10695	▲ 1.9	8.5	▲ 1.6	▲ 1.8	4.5	▲ 5.4	7.2	6.4	7.9	8.2						
	7月	▲ 9621	▲ 10218	3.9	2.3	1.0	▲ 1.0	3.7	0.7	▲ 0.3	▲ 0.7	▲ 2.8	▲ 2.7						
	8月	▲ 9485	▲ 9242	▲ 1.3	▲ 1.5	▲ 2.9	▲ 6.2	1.0	▲ 3.3	▲ 4.6	▲ 2.4	▲ 3.4	▲ 5.0						

(出所)財務省「貿易統計」

## ○輸出の足取りは鈍い

8月の貿易統計が財務省より発表され、貿易収支は9,485億円の赤字（コンセンサス：▲10,354億円、レンジ：▲11,400～▲8,499億円）となった。季節調整値でみると、輸出が前月比▲0.0%、輸入は同▲1.4%で、輸入の減少を主因に貿易収支は9,242億円の赤字と前月から赤字幅が縮小した。輸出は上向きつつあるものの、その足取りは鈍い。貿易赤字幅の一段の拡大には歯止めがかかっているものの、輸入の持ち直しが弱いことが背景にあり、内容は良くない。

物価変動の影響を除いた8月の実質輸出（実質化、季節調整は第一生命経済研究所試算）は、前月比▲0.3%（7月：同+0.9%）と小幅減少した。6月以降は横ばい圏内での動きが続いており、実質輸出に力強さは感じられない。4-6月平均と7-8月平均を比較しても、前期比+0.4%と横ばい程度に留まっている。

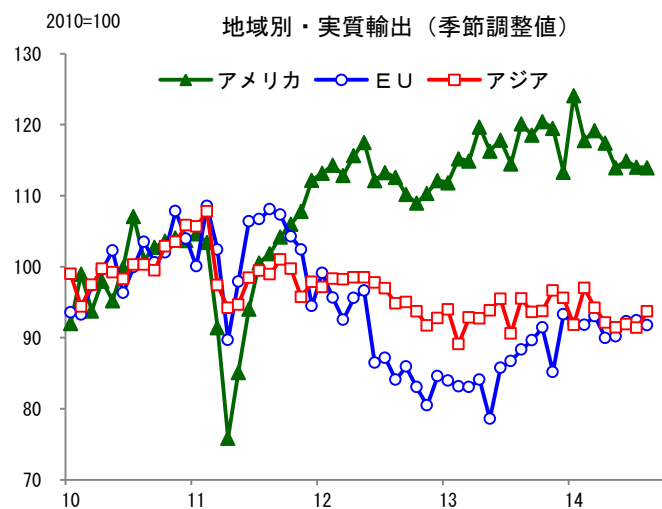
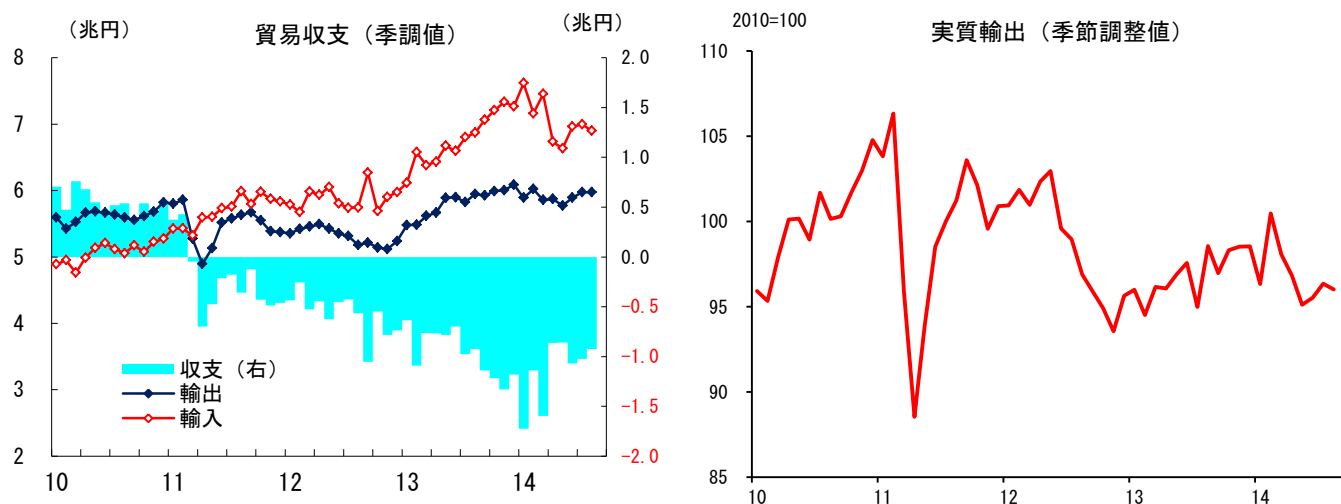
8月実質輸出を地域別に見ると、米国向けが前月比0.0%、欧州向けが同▲0.7%、アジア向けが同+2.5%となった。米国向けは、機械類がそれぞれ小幅な動きに留まり、全体では横ばいとなった。一般機械には持ち直しの兆しがみられるものの、米国向けの大部分を占める輸送用機器は5月以降底ばい程度の推移に留まっており、米国向け輸出の足を引っ張っている。米国の自動車販売は好調であるものの、国内大手自動車メーカーの海外生産台数が前年比プラス幅拡大傾向で推移しており、現地生産の拡大が輸出を抑制しているようだ。欧州向けは、一般機械が増加したものの、電気機器、輸送用機器が減少した。欧州向けは前月比マイナスではあるものの、14年入り後は横ばい圏での推移となっている。アジア向けは2ヶ月ぶりの増加となった。NIEs向けは小幅減少となったものの、ASEAN向け、中国向けが増加したことが背景にある。アジア向けは底ばいの推移が続いていたが、8月は比較的大きなプラスとなった。輸出の半数程度を占めるアジア向けが高めの伸びとなり、輸出全体を支えた。

## ○先行きの貿易収支は赤字幅拡大の可能性

先行きの輸出は、海外経済が回復に向かうことを背景に持ち直していくとみている。ただし、その持ち直

しペースは緩やかなものに留まるだろう。海外経済をみると、米国経済は堅調であるものの、欧州経済、アジア経済の持ち直しペースはまだ力強さに欠ける状態だ。海外経済の足取りが鈍いことに加え、輸出の大きな割合を占める輸送用機器で現地生産が拡大しており、こうした動きも輸出の抑制要因となっている。一方、輸入は内需の回復を背景に増加傾向での推移が予想される。総じてみれば、先行きの輸出、輸入ともに増加を予想しているが、金額ベースでみれば8月下旬からの円安の影響は輸入の方が大きいことから、貿易赤字幅は拡大しやすいだろう。

なお、8月の経常収支（季節調整値）は黒字を見込んでいるが、黒字幅は小幅なものに留まるとみており赤字もありえそうだ。



(※) 出所はすべて、財務省「貿易統計」。実質輸出の実質化、および季節調整は第一生命経済研究所。